

# ふるさと川俣活動計画



川俣地区住民協議会

# もくじ

## 計画策定にあたって

I. 川俣地区の概要	1～6
(1) 川俣という地名と変遷	
(2) 位置・地勢	
(3) 川俣地区の人口推移	
(4) 川俣地区の史跡名勝	
(5) 産業	
II. 川俣地域の問題・課題等	7～8
(1) 地域振興・産業	
(2) 環境・安全	
(3) 健康・福祉	
(4) 教育・文化	
III. 川俣地区の将来像	9
IV. 地域の目指す姿	9
V. まちづくりの具体計画	10～12
(1) 美しい環境を守り、災害に強い“ふるさと川俣”をつくろう	
(2) 健康で生き生きとした住みよい“ふるさと川俣”をつくろう	
(3) 歴史の香る“ふるさと川俣”をつくろう	
(4) 地域の特色を活かした“ふるさと川俣”をつくろう	
(5) 地域の将来をみんなで考え、発信する“ふるさと川俣”をつくろう	
VI. 個別事業計画	13

◇参考（策定経過）

## 計画策定にあたって

平成 17 年 1 月 1 日をもって 1 市 4 町が合併し、新しい松阪市が誕生しました。新市は 623.64 km<sup>2</sup>と広大な面積を有することとなりました。加えて、近年地方分権の流れや住民自治が叫ばれる中で、「自分達の地域は自分達で守る」といった住民が主役のまちづくりが求められてきました。

こうした背景のもと、平成 20 年 5 月 16 日、これまで活動してきた川俣地区自治運営委員会を発展解消させ、川俣地区住民協議会が発足することになりました。川俣地区住民協議会では、過去の取り組みを振り返りながら、今後の活動方針を定め、身の丈に合った地域づくり計画を策定し、次年度以降継続的に事業を実施していくこととしています。

計画樹立に先立ち、川俣地区に住む老若男女が自分達の地域をどのように見ているのか、また将来に向け何を望んでいるのかを把握するため、平成 25 年 12 月、川俣地区内の中学生以上の 1197 人を対象にアンケート調査を実施しました。回収率は 64%の 762 人から回答を得ることが出来ました。この結果を踏まえ、川俣住民の歩むべき方向を示して行きたいと思えます。

松阪市の中心部から約 40 km 余り西部に位置する川俣地区は、山間地域で例にもれず過疎化が顕著となり少子高齢化が深刻化しています。こうした時代にあっても、活動目標である互助の精神を胸に、一步一步事業を着実に展開し、ふるさと川俣に住む人、各々の幸福につなげていきたいと念じています。また、このまちづくり計画の遂行にあたっては、川俣地区の皆様のお一層のご理解とご支援を衷心よりお願いする次第です。



平成 27 年 5 月

川俣地区住民協議会

会長 鶴口 享佳

< 榎田川と沈下橋（栗野） >

## I. 川俣地区の概要

### (1) 川俣という地名と変遷

中世(鎌倉時代から戦国時代)において、すでに榑田川一帯は川俣谷と呼ばれていました。江戸時代初期の検地帳では、当時の村々の上に更に重ねて川俣谷とか川俣の文字をつけています。元禄 13 年(1700 年)の検地帳によると、田引、下栗野、上栗野、富永、栃川、谷野、七日市の村々に分かれていました。明治 22 年の市町村制施行に伴い、田引、栗野、富永、宮本、七日市の 5 ヶ村が合併して川俣村が発足し、昭和 31 年には、隣接する宮前村、川俣村、森村、波瀬村が合併し飯高町となりました。

そして、平成 17 年 1 月には 1 市 4 町が合併し松阪市として新市がスタートしました。

### (2) 位置・地勢

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔て津市に接しています。川俣地区は、松阪市の西部にあたる飯高町の中央部に位置しています。

三峰山(1,235.4m)の懐に抱かれた山間地域です。地区の中央には、榑田川が東流し、伊勢湾へと注いでいます。また、榑田川と並走するように国道 166 号線が東西に走っています。

川俣地区内の七日市は、旧和歌山街道の本陣があり参勤交代の街道として栄え、明治初期まで大きな宿場が形成されていました。

## 【地域位置図】

三重県図



松阪市図



### 3) 川俣地区の人口推移

※国勢調査より

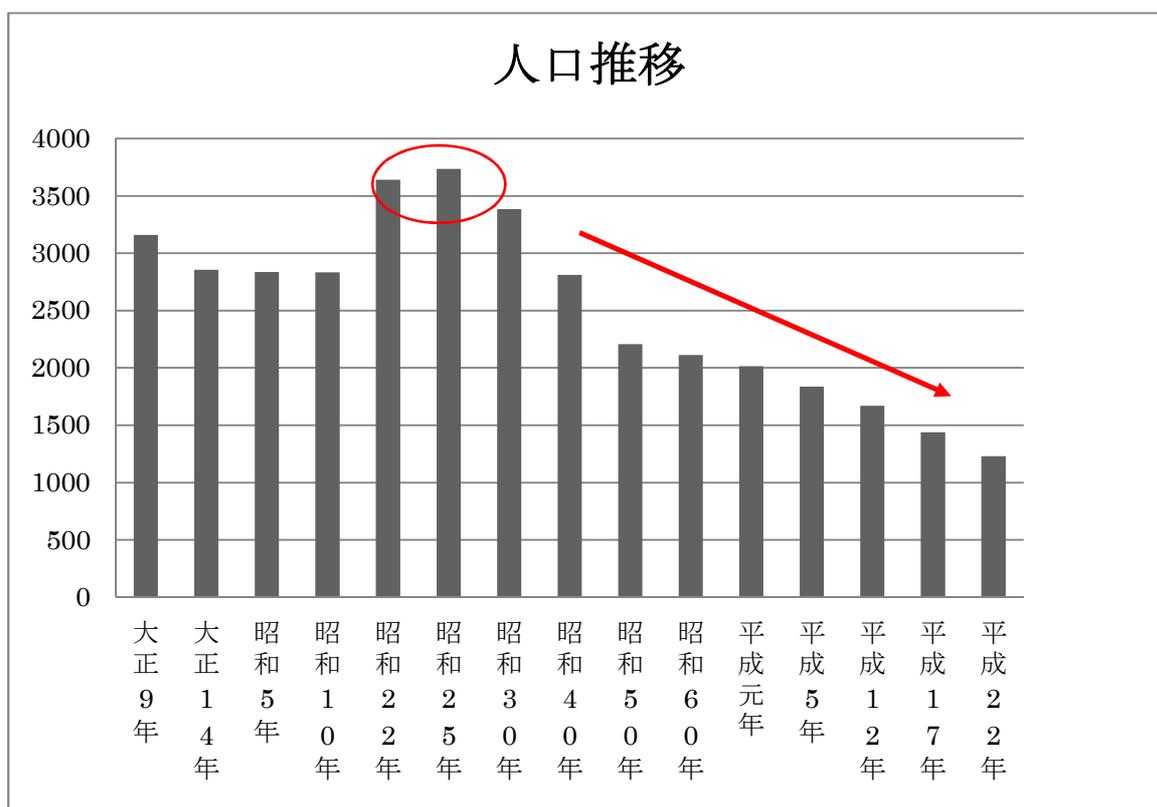
川俣地区の人口推計を見てみると、戦後のベビーブームである昭和 25 年の 3,735 人をピークに減少傾向にあります。特に、昭和 40 年代に入り、高度経済成長期には 3,000 人を割り込み、団塊の世代が都市部へと流出していきました。我々の地域も例にもれず過疎化の波が大きく打ち寄せてきています。

小中学校の児童生徒数の推移をみると、その姿が顕著になっています。川俣地区にあった小学校 3 校、中学校 1 校も時代の波に押され、幾度となく統廃合が繰り返され、平成 28 年 4 月 1 日より、飯高町は中学校 1 校、小学校 2 校となります。



<川俣小学校：休校>

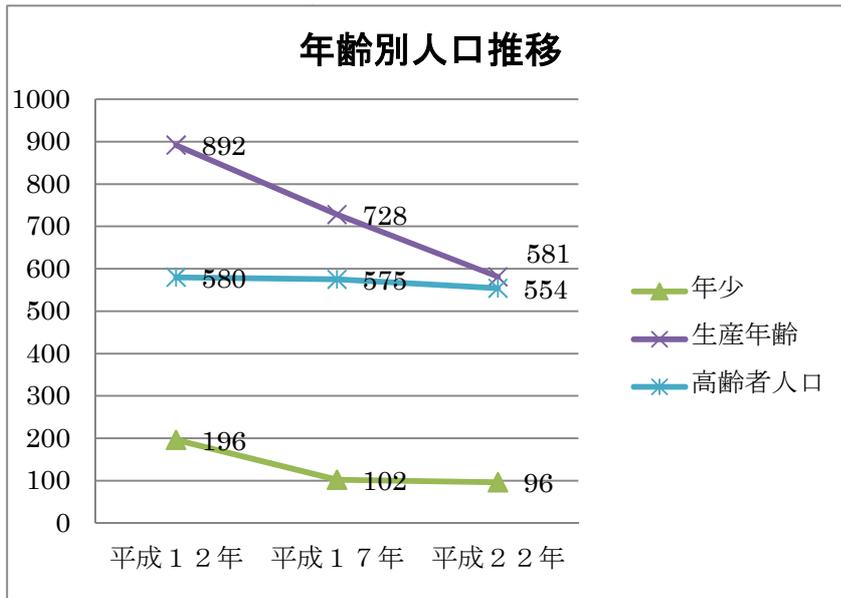
年	人 口
大正 9 年	3,160 人
14 年	2,856 人
昭和 5 年	2,835 人
10 年	2,834 人
22 年	3,642 人
25 年	3,735 人
30 年	3,385 人
40 年	2,812 人
50 年	2,208 人
60 年	2,112 人
平成元年	2,016 人
5 年	1,838 人
12 年	1,669 人
17 年	1,438 人
22 年	1,231 人



川俣地区の年齢別人口推移

※国勢調査より

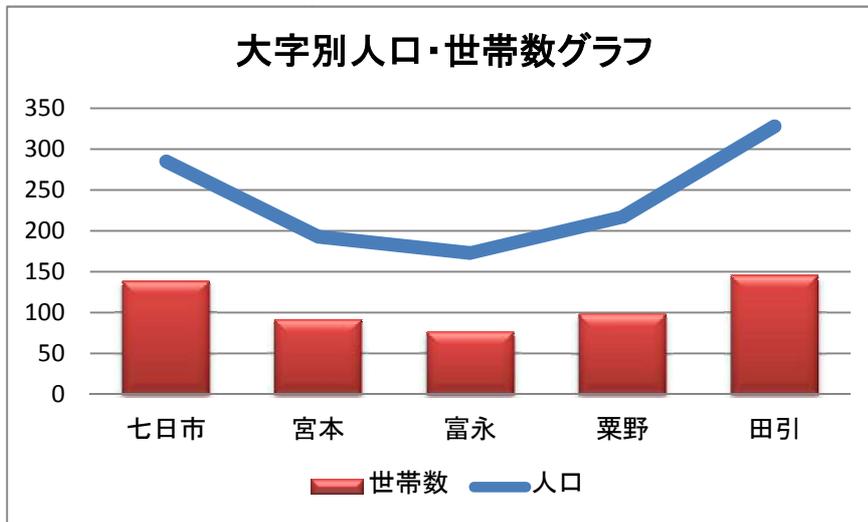
年	世帯数	人口	年少人口 ～14歳以下	生産年齢 15～64歳	高齢者人口			65歳以上の 独居世帯
					65歳～	75歳～	85歳～	
平成12年	583	1,668	196	892	580	246	73	94
平成17年	554	1,405	102	728	575	282	70	100
平成22年	508	1,231	96	581	554	319	80	105



大字別人口・世帯数

住民基本台帳データ(H27.4)

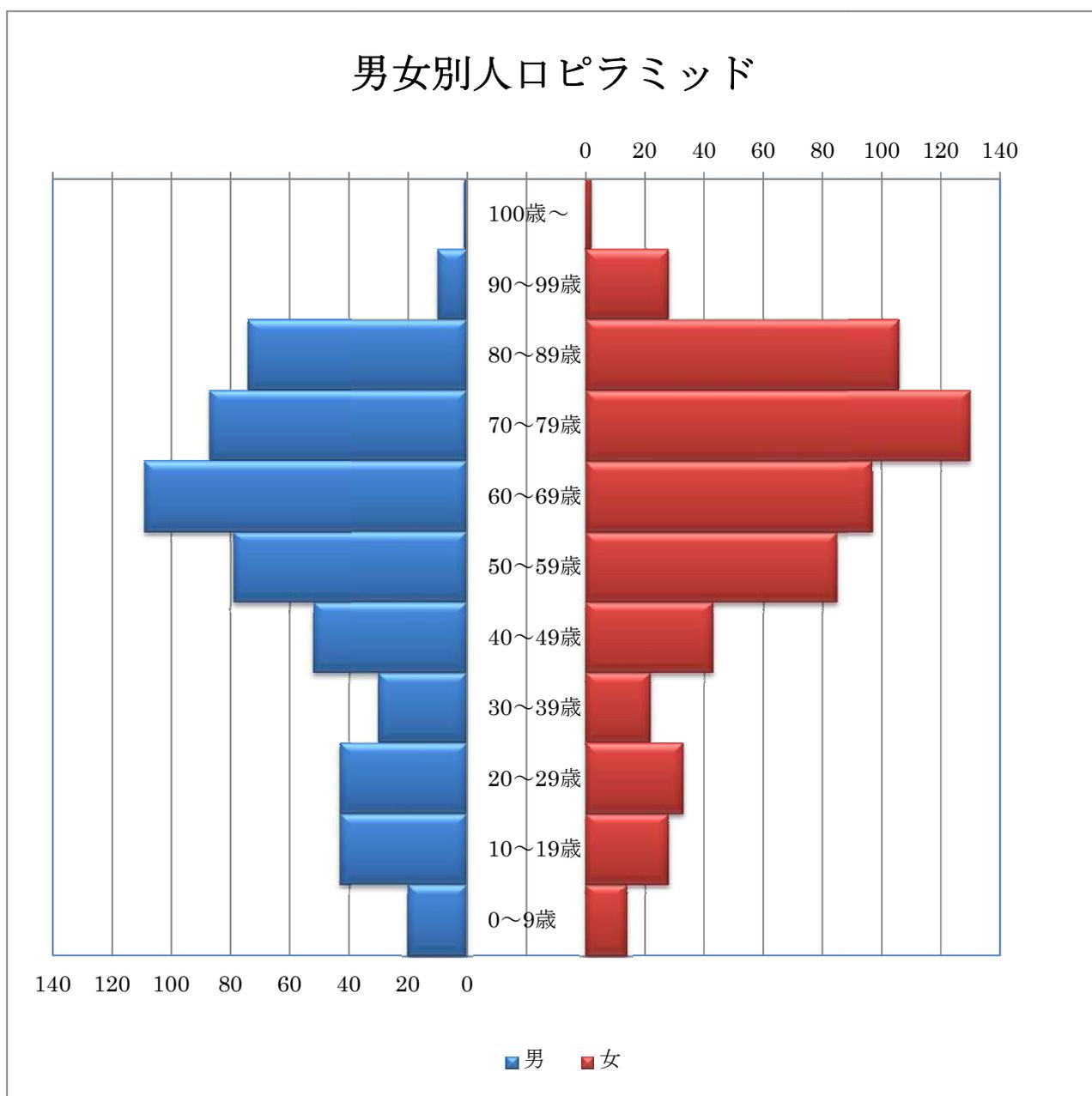
大字別	七日市	宮本	富永	栗野	田引
人口	269	188	162	210	307
世帯数	132	91	73	98	138



## 男女別人口

住民基本台帳データ（H27.4）

男女別	0～9 歳	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 ～
男	20	43	43	30	52	79	109	87	74	10	1
女	14	28	33	22	43	85	97	130	106	28	2
計	34	71	76	52	95	164	206	217	180	38	3



#### (4) 川俣地区の史跡名勝

<安養寺鰐口 (栗野) >

##### ➤ 三重県指定文化財

<sup>わにくち</sup>**鰐口(大日山安養寺)**……室町初期文安元年(1444年)の作

～お堂の前の軒下にかけて大紐を付けて鳴らす仏具～



##### ➤ 松阪市指定文化財

**旧川俣小学校跡街道松**……かつての和歌山街道に並木松として植えられており、人々の往来を見守ってきました。

**福本の大トチノキ**……高さ 22m、周囲 6,85m。樹齢 400～500 年と推定される。県下最大級のトチノキの大木。周囲にもたくさんのトチノキがあり、飢饉などに備えて植樹されたものといわれています。

##### ➤ 各地域の旧跡等

###### (田引地区)

一本松の碑 橋地蔵 脇谷観音 薬師堂十二神将 (大杓子)  
十輪堂観音 田引城址 弁財天 奥山天神 大日如来 (大台町越え)  
禅源寺 八柱神社

###### (栗野地区)

九曲城址 咳岩 県指定文化財鰐口 中央構造線大露頭 (田引境)  
退蔵寺 仙瑞寺 八柱神社

###### (富永地区)

靖国神社 福本城址 魔防(ませぐ)神社 直心寺 富永城址  
大富神社 街道松 大トチの木

###### (宮本地区)

長昌寺 和田丸城址 大谷嘉兵衛生誕の地 平和神社 長楽寺  
熊ヶ池と弁財天 谷野城址

###### (七日市地区)

伝入仏墓石 弘法の井戸 谷端遺跡  
牧口遺跡 橋地蔵 経塚 洞谷寺  
法専寺 七日市本陣跡 七日市城址  
平和の丘・ナギの大木  
役行者像 (大定峠)



<大谷嘉兵衛翁像 (宮本) >

➤ 名勝

<雪の三峰山>

**三峰山(1,235.4メートル)** ……高見山から東へ延びる三峰山系の主峰。ハ丁平は、ススキ、カヤ、クマザサ、シロヤシオ、ドウダンツツジなどが見られ、高原の様相を呈しています。(富永～栗野)



**お熊が池** ……弁天山の山頂。周囲約1kmの沼地。

ミズバショウのほか、ジュンサイやオオミズゴケを見ることができます。(宮本)

(5) 産業

川俣地区の産業就業人口は、飯高町の動態と連動しており、飯高町における過疎化進行の初期段階に当たる昭和35年には、第1次産業(農業・林業等)3,047人、第2次産業(建設業・製造業等)1,225人、第3次産業(卸売、小売業・サービス業等)1,077人で、総就業人口は、5,350人となっています。

松阪市へ合併後の平成22年には、第1次産業226人(昭和35年対比△2,821人)、第2次産業611人(同△614人)、第3次産業964人(同△113人)総就業人口1,801人(同△3,549人)となり、50年間に66.3%も激減しています。

一方、川俣地区農家数及び経営耕地面積をみると下記の表のとおりです。

農家数にあつては、昭和60年から25年間で150戸の減少になっており、経営耕地面積も46haが荒廃農地と様変わりしています。

このように、農林業離れは荒廃農地を助長させており、手つかずのまま放置されています。田・畑が随所にみられるようになってきました。

農家数及び経営耕地面積

\*農林業センサスより

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
農家数	349戸	278戸	254戸	226戸	212戸	199戸
経営耕地面積	119ha	104ha	95ha	88ha	78ha	73ha

林業においては伐期の適齢期に達している林地が多く見られるものの、木材価格の低迷や外材の輸入等により、間伐や皆伐が行われないうまま放置されている山林が多く見受けられるようになってきました。

こうした傾向は、今後もさらに続くものと予想されるが、鳥獣害対策として獣害ネットの設置など、地域に残った者がその対策に苦心しており、今後も第1次産業の衰退は我々の地域に暗影を投じています。



<茶畑(富永)>

## Ⅱ. 川俣地域の問題・課題等(住民アンケートから明らかになったこと)

### (1) 地域振興・産業

#### 《問題・課題》

- ・ 少子高齢化による人口減少は地域の活力の低下を招き、自治運営が難しくなっている。
- ・ 林業の衰退、農業の担い手不足で山は荒れ、田畑においては耕作放棄地が増えている。
- ・ 働く場がないので、若者が流失している。
- ・ 地域活動に参加しないといった意識の変化により、地区役員に負担が集中してきている。
- ・ 人口減少により、公共交通機関の利用者が減っていることから区間、便数等が縮小され、不便になっている。
- ・ 獣害により、高齢者等の生きがいを阻害している。
- ・ 情報発信ツールを活かせる人材が少ない。

#### 《いいところ》

- ・ 川俣は飯高町の中心に位置し、公共施設や民間施設がある。(B&G海洋センター、開発センター、社協、消防署、郵便局、J A、医院、衣料品店等)
- ・ コミュニティバス「たかみ号」が走っている。
- ・ 野菜の直売所があり、生きがいになっている。



### (2) 環境・安全

＜野菜等直売所:河俣の里 {七日市}＞

#### 《問題・課題》

- ・ 国道 166 号線で未整備の狭い箇所があり危険である。
- ・ 空家が増え、倒壊の危険や景観の悪化等をまねいている。
- ・ 道路沿いの竹林や草木が荒れたままで手入れされないと、ゴミ捨てを誘発し環境悪化が危惧される。
- ・ 急峻な地形であることから、風水害、地震等の自然災害に強い積極的な防災対策が必要。

#### 《いいところ》

- ・ 虫が飛交う豊かな美しい自然がある。
- ・ 薬草の宝庫である。
- ・ 同報無線があり、緊急放送に役立っている。



### (3) 健康・福祉

＜ミズバショウ (熊ヶ池)＞

#### 《問題・課題》

- ・ 医療機関が少なく、総合病院で受診するには遠くて不便である。
- ・ 高齢者の多くは健康に不安を持っている。

- ・独居や2人暮らしの高齢者が今後も増え続ける。
- ・行政サービス等が縮小されてきた為、近くで健康診断等が受けにくくなってきた。

#### 《いいところ》

- ・ボランティアの登録者が多い。
- ・防災カルテができています。
- ・地域見守り者がいてくれて心強い。
- ・誰にでもあいさつするといった、おもてなし精神がある。



<B&G 海洋センター(七日市)>

### (4)教育・文化

#### 《問題・課題》

- ・子育て世代の減少により、保育園・学校がなくなっている。
- ・祭や伝統行事を受け継ぐ者が少なくなっており、縮小や、消滅していくものもあり、地域の人々が交流できる場が少なくなっている。
- ・学校の活用、再利用
- ・川俣地区の歴史・文化・観光資源を掘り起こし、活用していく機運に欠けている。

#### 《いいところ》

- ・地域の史跡看板が整備されている。
- ・観光資源として、三峰山の樹氷、熊ヶ池のミズバショウ、栗野の中央構造線（断層露頭）などがある。



<田園・里山の風景(栗野)>



<ふるさと川俣いもまつり>

### Ⅲ. 川俣地区の将来像

## 『助け合い、励ましあい、共に生きる“ふるさと川俣”』

お互いを認め合い、連帯感を高め、誰もがその人らしく生き生きと暮らせる地域づくりを推進して、「互助共生の里」をめざします。



### Ⅳ. 地域の目指す姿

#### (1) 美しい環境を守り、災害に強い“ふるさと川俣”

##### <環境安全部会>

地域住民の減少と高齢化が進む中、住民が力を合わせて美しい自然の保全に努め、共に助け合い安心して暮らせる川俣にしていきます。

#### (2) 健康で生き生きとした住みよい“ふるさと川俣”

##### <健康福祉部会>

年々高齢化する川俣住民が、健康で長生きできるための支援と環境づくりをおこないます。

#### (3) 歴史の香る“ふるさと川俣”

##### <教育文化部会>

川俣には残していきたい歴史、伝統文化、行事がたくさんあります。そしてまた、川俣の人々の生活や人情の中に、まだまだそれらが色濃く残っています。それを生かした活動を展開することが生き生きとした輝いた人づくり、特色ある地域づくりにつながります。

#### (4) 地域の特色を活かした活力ある“ふるさと川俣”

##### <地域振興部会>

高齢化が進む中、地域挙げての祭りを開催することで、地域の良さを見つめ直す機会と「ふるさと川俣」の絆を深める機会を創ります。また、伝統的な行事等の保存継承の支援も進めていきます。農家数の激減により、荒廃農地が見受けられることから、その保全に対する検討を長期的な視野に立って実施していきます。

#### (5) 地域の将来をみんなで考え、発信する“ふるさと川俣”

##### <アンテナ部会>

様々な機会や方法を利用して、地域の現状や今後のあり方について、多くの住民参加のもと、話し合いの場を設けていきます。また、住民協議会の活動や川俣のよさ(自然や歴史、文化、人など)を地域内外に発信するとともに、地域に関することや活動についての感想や希望、提言を受信していきます。

## V. まちづくりの具体計画

### (1) 美しい環境を守り、災害に強い“ふるさと川俣”をつくろう

<実施主体：環境安全部会>

事業名	事業内容	主体	期間	予定時期	備考
1. 地域美化活動	国道沿いの草刈り等の美化活動、早朝清掃活動、旧川俣小学校清掃活動、公園や生活道路沿いの清掃活動	自主	短期	H. 27 年～ (継続)	年1～2 回
2. 防災に関する啓発活動	各地区防災組織の自主的活動の推進と総合訓練の実施	自主	短期	H. 27 年～ (継続)	年1～2 回
3. 空家対策	空家バンクと連携し、家屋の調査や登録の推進業務の実施	自主	短期	H. 27 年～	随時

### (2) 健康で生き生きとした住みよい“ふるさと川俣”をつくろう

<実施主体：健康福祉部会>

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 星空観察会	星空を観察し、地域環境の素晴らしさを感じる	自主	短期	H. 27～ 継続	年1回
2. 歴史探訪健康ウーキング	みんなで楽しく歩きながら、地元に残る名所・旧跡を再発見する	自主	短期	H. 27～ 継続	年1回
3. ふるさと川俣健康祭	子どもからお年寄りまで楽しめる軽スポーツであるユニカル大会を開催する	自主	短期	H. 27～ 継続	年1回
4. 敬老会事業	川俣地区福祉会との共催で、川俣ふるさと祭りと協力・提携し、アトラクション、演芸等で一日お年寄りに楽しんでいただく	協働	短期	H. 27～ 継続	年1回
5. 地域見守事業	独居や二人暮らしの高齢者を、定期的に巡回し声かけをする「見守隊」事業の検討	協働	短期	H. 27～	随時

## (3) 歴史の香る “ふるさと川俣” をつくろう

&lt;実施主体：教育文化部会&gt;

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. ふるさと川俣いも祭	昔の生活文化展、川俣いも等農産物の収穫感謝祭	自主	短期	H. 27～ 継続	
2. 川俣ふるさと祭	公民館の活動成果展、サークルグループ作品展、小中学生作品展	自主	短期	H. 27～ 継続	
3. 茶王大谷嘉兵衛翁祭	大谷嘉兵衛の功績顕彰、資料展	協働	短期	H. 27～ 継続	
4. 歴史探訪	地域に残る史跡の掘り起こし事業	自主	短期	H. 27～ 継続	
5. 青少年健全育成活動	世代間交流を通して次世代に川俣の文化を伝える事業	協働	長期	H. 27～ 継続	
6. 「語り部」の育成と川俣資料館の活用	先代の知恵が生活に生かされている昔の生活を後世に伝える事業	自主	短期	H. 27～	

## (4) 地域の特色を活かした “ふるさと川俣” をつくろう

&lt;実施主体：地域振興部会&gt;

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 広報誌「かばた」の発行	地域の情報を共有するため広報誌を発行	自主	短期	H. 27～ 継続	年3回
2. ふるさと川俣夢まつり	お盆に開催される夏まつりで、懐かしい盆踊りの継承や夜店、イベント等の実施	自主	短期	H. 27～ 継続	
3. 地域づくり支援事業	七日市ホテル祭り等の運営費助成	自主	短期	H. 27～ 継続	
4. 地域産業の振興	荒廃農地への対応について検討	協働	短期	H. 27～	

(5) 地域の将来をみんなで考え、発信する“ふるさと川俣”をつくろう

<実施主体：アンテナ部会>

事業名	事業内容	主体	スパン	予定時期	備考
1. 地域計画の見直し	・住民の意見を聴く機会を設ける(行事ごとのアンケート、年間通じての投書、メール、各種会合での話し合い等)	自主	長期	H. 27～ (継続)	
2. 情報の発信	・フェイスブック「ぎゅうっと松阪」を活用して情報発信をする(勉強会の開催、情報発信)	自主	短期	H. 27～ (継続)	
3. ホームページの開設	・住民協議会ホームページを作成する。(H29年度中の運用をめざす)	自主	中期	H. 29	
4. ホームページの管理運営	・継続して管理運営(更新・改良等)を行っていく	自主	中期	H. 30～	



<ふるさと川俣夢まつり>



<森林(富永)>



<産業振興センター(田引)>

VI. 個別事業計画 <各部会で作成を目標とする：平成 28 年度から>

**作成例、1**

(1)ー1	施策名	具体的な地域課題			参 考 資 料		
	地域美化活動	民家の少ないところなど、ゴミの投棄などで環境が悪化する			箇所図	写真	イメージ図
現状と目的・課題		道路沿いで特に民家などがいないところでは、ゴミが捨てられることから環境が悪化する。このことから地域をあげて環境の整備を行う。					
具体的な解決策		国道などの道路沿いや公共施設などの清掃を行うことで、常にきれいにすることで、ゴミの投棄などを少なくしていく。					
事業の詳細説明		道路清掃事業を委託し、管内の国道等の草刈りや空き缶拾い、ゴミ拾いを行う。活動拠点である、川俣小学校敷地の草刈りや清掃を行う。					
年次計画		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
		●	●	●	●	●	
概算予算 (交付金充当額)		円	円	円	円	円	
参考資料		<添付資料> 箇所図・写真・イメージ図					

**作成例、2**

(2)ー1	施策名	具体的な地域課題			参 考 資 料		
	ふるさと川俣健康祭り	健康づくりの機会をつくる 住民の健康づくりへの意識向上			箇所図	写真	イメージ図
現状と目的・課題		健康づくりを思いながらも機会がないこと、また、世代を超えた大勢でレクリエーション競技を楽しむ健康的な行事を望む声が多い。					
具体的な解決策		子どもから高齢者まで気軽に取り組める軽スポーツを競技大会の形式でおこなうことにより、健康づくりとともに住民の交流を図る。ユニカールは地域で普及しており、天候に関係なく室内でおこなえる。					
事業の詳細説明		ユニカール競技大会を実施。各地区4チーム(1チーム5~6名程度)を編成し、総当たり予選リーグを勝ち抜いたチームが決勝トーナメントに進む。					
年次計画		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
		●	●	●			
概算予算 (交付金充当額)		円	円	円			
参考資料		<添付資料> 箇所図・写真・イメージ図					

## ◇資料 地域計画『ふるさと川俣活動計画』策定までの経過

平成24年5月21日	平成24年度川俣地区住民協議会総会 ・地域計画作成に向けてアンテナ部会を設置
6月11日	第1回部会 ・今後の活動について協議
7月5日	第2回部会 ・川俣地区の現状と課題について意見交換
平成25年6月10日	第3回部会 ・メンバーの交代もあり、今後の活動計画について協議 ・地域計画作成のための資料として、住民アンケートを実施することにする。
7月29日	第4回部会 ・住民アンケートの概要、スケジュール等について協議
9月10日	第5回部会 ・アンケート調査の項目について検討
10月22日	第6回部会 ・アンケート調査項目の検討 ・アンケート実施方法、スケジュールについて協議
11月8日	住民協議会役員会 ・住民アンケート実施について、内容、方法について説明し了承を得る
11月下旬 ～12月上旬	各区役員会議（5地区） ・住民アンケート実施について説明し、自治会長に配付回収等の協力依頼
12月20日	アンケート回収終了
平成26年1月20日	第7回部会 ・アンケート結果の集計
3月10日	第8回部会 ・住民アンケート集計結果について意見交換
3月25日	第9回部会 ・住民アンケート集計結果まとめ作成
3月下旬	住民アンケートまとめ冊子の自治会回覧、並びに役員、自治会長等の住民協議会関係者に配付

- 平成 26 年 6 月 13 日 第 10 回部会  
 ・今後の活動計画について協議
- 7 月 8 日 第 11 回部会  
 ・住民アンケート集計結果、第 2 回部会の話し合いのまとめをもとに地域の現状と課題について協議
- 8 月 25 日 第 12 回部会  
 ・地域の現状と課題について協議  
 ・地域計画の構成等について協議
- 9 月 30 日 第 13 回部会（住民協議会役員との合同会議）  
 ・住民アンケート集計結果について  
 ・地域の現状と課題について  
 ・各部会へ地域計画策定に向けての協力依頼
- 平成 27 年 1 月 22 日 第 14 回部会  
 ・地域計画案の検討
- 2 月 27 日 第 15 回部会  
 ・地域計画案の検討
- 3 月 23 日 第 16 回部会  
 ・地域計画案の検討  
 ・今後の部会活動について協議
- 5 月 22 日 平成 27 年度川俣地区住民協議会総会に諮り、承認される